

労働組合の役割と視点 - その過去・現在・未来

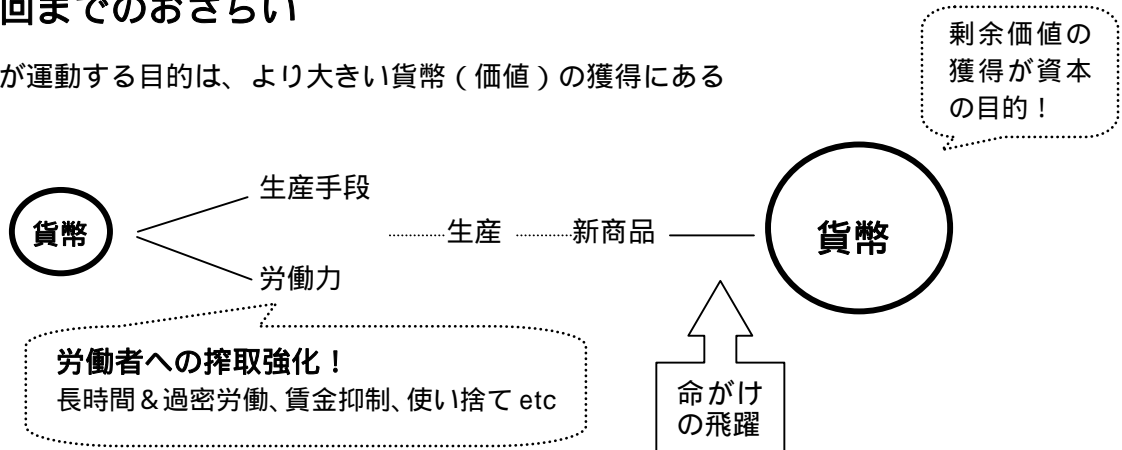
09.6.25

岡山県労働者学習協会 長久啓太

ブログ「勉客商売」 <http://benkaku.typepad.jp/blog/>

一。前回までのおさらい

資本が運動する目的は、より大きい貨幣（価値）の獲得にある



「資本主義的生産過程を推進する動機とそれを規定する目的とは、できるだけ大きな資本の自己増殖、すなわちできるだけ大きな剰余価値の生産、したがって資本家による労働力のできるだけ大きな搾取である」

（『資本論』第11章「協業」576P）

資本主義の矛盾のあらわれ

- * 利潤第一主義が行動原理（資本の論理）
- * 生産と消費の矛盾（恐慌）、貧困と格差の拡大、発展途上国の自立的発展の阻害、地球温暖化など、数々の「病」を抱えている。
- * こうした「病」の緩和薬、延命薬は開発できるが、根治薬（資本主義そのもののしくみを変える）は飲めないのが資本主義という社会。

【注意点…資本主義を全否定するのは間違い】

- ・資本主義には、それまでには見られない大きな進歩面もたくさんある
- ・人権や民主主義、さまざまな自由は大きく発展している

強い「反作用」を生み出す

「貧困、抑圧、隷属、墮落、搾取の総量は増大するが、しかしまた、絶えず膨張するところの、資本主義的生産過程そのものの機構によって訓練され結合され組織される労働者階級の反抗もまた増大する」

（『資本論』第24章「いわゆる本源的蓄積」1306P）

二。労働者階級と、労働組合の成長・発展

1. 労働者階級こそが、社会変革の担い手である

マルクス以前にも、資本主義を批判する社会主義思想はたくさん存在した

「しかし、空想的社会主義はじっさいの活路をしめすことができなかった。それは資本主義のもとでの賃金奴隷制の本質を説明することもできず、資本主義の発展法則を発見することもできず、また新しい社会の創造者となることのできる社会的勢力を発見することもできなかった」

(レーニン『マルクス主義の三つの源泉と三つの構成部分』)

労働者が、たたかいの指針を得、自己の力を認識するために - 理論の力

「階級闘争は理論よりも先にはじまる。理屈よりもまず、労働者はたべてゆかねばならないし、生きてゆかねばならない。黙っておとなしくしていたら殺されてしまうのだ。人間としてあつかってもらえないのだ。…たたかわないわけにはいかないが、どちらの方向へ向いて、どんな見通しをもって、たたかってゆけばよいのか。そういう不安や疑問にこたえて、たたかいのなかから、だんだん理論ができあがってゆく。そしてこれを体系的に仕上げたのが、いうまでもなくマルクスとエンゲルスで、その理論は科学的社会主義の理論とよばれるようになった」

(浜林正夫『新装版 物語 労働者階級の誕生』学習の友社、2007年)

「マルクスとエンゲルスの労働者階級にたいする貢献は、短い言葉で表現すれば、つぎのようにいうことができよう。彼らは労働者階級に、自己を認識し、自覚することを教え、夢想を科学に変えた、と」

(レーニン『フリードリヒ・エンゲルス』)

【ワンポイント学習 - 社会変革は、人びとのたたかいが鍵をにぎる】

* 資本主義の矛盾がどんなに深くなっても、自動的に資本主義が自滅したり、次の社会にとってかわられることはない。

* いつの時代でも、人びとの、やむにやまれぬたたかい(階級闘争)によって、歴史は動き、発展してきた。

社会発展史は、また別の機会にぜひ学んでください！

【ワンポイント学習 - 階級とは何か】

* 生産手段(土地・建物・機械・原材料)の所有関係のよって区別される社会的な集団のこと。富の分配も、とうぜん区別される。

* 人類は、階級のなかった(生産手段を共同所有していた)原始共産制社会から、奴隷制、封建制、資本主義という階級社会を経験してきている。

2。「労働組合 その過去・現在・未来」(マルクス、1866年)

その過去

「資本は集積された社会的力であるのに、労働者が処理できるのは、自分の労働力だけである。したがって、**資本と労働力のあいだの契約は、決して公正な条件にもとづいて結ばれることはありません。**それは、一方の側に物質的生活手段と労働手段の所有があり、反対の側に生きた生産力がある—社会の立場からみてさえ、公正ではありえない。**労働者のもつ唯一の力は、その人数である。しかし、人数の力は不団結によって挫(くじ)かれる。**労働者の不団結は、労働者自身のあいだの避けられない競争によって生みだされ、長く維持される。

最初、労働組合は、この競争をなくすかすくなくとも制限して、せめてたんなる奴隷よりはましな状態に労働者を引き上げるような契約条件をたたかいてろうという労働者の自然発生的な試みから生まれた。だから、**労働組合の当面の目的は、日常の生活をみたすこと、資本のたえまない侵害を防止する手段となることに、限られていた。一言でいえば、賃金と労働時間の問題に限られていた。**労働組合のこのような活動は正当であるばかりか、必要でもある。現在の生産制度がつづくかぎり、この活動なしにはすまずことはできない。反対に、**この活動は、あらゆる国に労働組合を結成し、それを結合することによって普遍化されなければならない。**

他方では、労働組合は、みずからそれを自覚せずに、労働者階級の組織化の中心となってきた。それはちょうど中世の都市やコミュニオンが中間階級〔ブルジョアジー〕の組織化の中心となったのと同じである。労働組合は、資本と労働のあいだのゲリラ戦にとって必要であるとすれば、賃労働と資本支配との制度そのものを廃止するための組織された道具としては、さらにいっそう重要である」

* 世界で最初に資本主義が発展したイギリスでの、労働者の成長

<産業革命による機械の導入、労働者の状態の悪化>

- ・低賃金、長時間労働、無権理状態

<個人的抵抗から出発した>

- ・1日の労働によって作りだした商品をふところに入れても持ち出し、それを町で売りさばくという、「ぬすみ」という抵抗。しかし、もちろん犯罪として処罰された。

<集団的な暴動 - その典型は、機械うちこわし(ラダイト)>

- ・労働者の苦しみの原因のひとつが「この機械にある」として、うちこわしを始める。しかし、これも重大犯罪として処罰の対象となり、効果をあげることはほとんどなかった。

<ストライキの発明>

- ・集団的な仕事放棄。労働力販売のいっせい中止。資本家には、これが一番痛かった。しかし、ストライキのときだけの団結では、効果のあるたたかいができないことを学び、恒常的な団結の組織、労働組合の結成に到達していく。

< 団結禁止法 >

- ・労働者のたたかいを恐れた資本家は、政府に団結禁止法をつくらせ、ストライキと労働組合を禁止し、犯罪として取り締まる。イギリスの労働者は、まさに命がけのたたかいを強いられた。
- ・それでも、イギリスの労働者は屈することはなかった。敗北をくり返しなが
らも、ついに 1824 年には団結禁止法を廃止させる歴史的勝利を勝ち取る。

- * 労働者の成長物語・日本ヴァージョン - 高井としを (資料参照)
- * 日本の労働組合の創設に走り回った片山潜は岡山・久米南町出身

その現在

「労働組合は、資本にたいする局地的な、当面の闘争にあまりにも埋没しきって
いて、賃金奴隷制そのものに反対して行動する自分の力をまだ十分に理解してい
ない。このため、労働組合は、一般的な社会運動や政治運動からあまりにも遠ざ
かっていた。だが、最近になって、労働組合は、自分の偉大な歴史的使命にいく
らか目ざめつつあるように見える。それは、たとえば、イギリスの労働組合が近
年の政治運動に参加していること、合衆国の労働組合が自分の役割についていっ
そうひろい見解をいただいていること、さらに最近シェフィールドでひらかれた巨
大な労働組合代表会議が次のような決議をおこなったことからみて、明らかであ
る。

『本会議は、すべての国の労働者を一つの共通の兄弟のきずなで結びつけよう
とする国際協会の努力を十分に評価し、全労働者の進歩と福祉にとって協会が必
要欠くべからざるものであることを確信して、本会議に代表を送った各組合に、
国際協会への加盟を心から勧告する』

- * 資本の横暴を規制する法律をつくるために
 - ・労働者自身の政治組織が必要という要求が高まってくる
- * イギリスのチャーティスト運動…労働者にも選挙権を！ (普通選挙権を)
- * 全国的なたたかい、すべての国の労働者の連帯を

「ときに労働者たちは勝つこともあるが、それはただ一時的でしかない。彼ら
の闘争の本来の成果は、直接の成功ではなくて、労働者たちがますます広く自
分のまわりにひろげてゆく団結である。労働者たちの団結は、大工業が生み出
して、種々の地方の労働者たちを互いに結びつける交通手段の増大によって促
進される。しかし、いたるところで同じような性格をもっている多くの地方的
闘争を、1つの全国的な闘争に、1つの階級闘争に集中するためには、団結だ
けが必要なのである」(マルクス・エンゲルス『共産党宣言』1848年)



わしゃ、岡山
じゃけえのお

- * 日本にも労働者階級の政党を・・・片山潜などの奮闘
 - ・労働者階級の政党として、社会民主党を 1901 年に結成する。しかし、結党の 2 日後には解散させられる。その綱領には、人類はすべて同胞である（国際連帯）世界の平和と軍備全廃、階級制度全廃、土地および資本の公有、鉄道、船舶、運河、橋梁など交通機関の公有、財産の公平な分配、人民が平等に政権をえること（普通選挙権）、教育の機会均等と無償化、という理念を示していた。
 - ・1922 年、日本共産党の創立。科学的社会主義を理論的な基礎とし、労働者階級の政党として誕生する。

- * 労働者の最大の力は「数」(資料参照)
 - ・イタリアのゼネラルストライキ(2002年)
 - ・フランスでも今年1月に250万人が参加してゼネストが行われている
 - ・職場や地域、社会を動かしているのは誰か
 - ・日本の労働者も、ものすごいたたかいの歴史をもっている(安保闘争など)

その未来

「いまや労働組合は、その当初の目的以外に、労働者階級の完全な解放という広大な目的のために、**労働者階級の組織化の中心として意識的に行動することを学ばなければならない**。労働組合は、この方向をめざすあらゆる社会運動と政治運動を支援しなければならない。みずから全労働者階級の戦士、代表者をもって自認し、そうしたものとして行動している労働組合は、**非組合員を組合に参加させることを怠ることはできない**。労働組合は、**異常に不利な環境のために無力化されている農業労働者のような、賃金のもっとも低い業種の労働者の利益を細心にはからなければならない**。労働組合の努力は狭い、利己的なものでは決してなく、ふみにじられた幾百万の大衆の解放を目標とするものだということを、一般の世人になっとくさせなければならない」

- * 「組織化の中心として意識的に行動することを学ばなければならない」
- * 「非組合員を組合に参加させることを怠ることはできない」
- * 「異常に不利な環境のために無力化させられている農業労働者のような、賃金のもっとも低い業種の利益を細心にはからなければならない」

今日の労働組合運動への豊かな指針となる言葉

三。階級闘争の3つの側面（まとめ）

1. 経済闘争（搾取強化にたいする「抵抗」）

労働者がおかれている客観的状态から生まれてくる経済的要求（賃上げ、雇用、時短、労働条件など）をかちとるために、個々の資本家や資本家団体などを相手として行うたたかい。

経済闘争は、もっとも広範な労働者が参加できる闘争で、今日のような厳しい職場環境のもとでは、大変重要なたたかい。

2. 政治闘争（資本への社会的規制）

今日の社会では、経済闘争のみでは解決できないさまざまな問題があります。派遣労働者がなぜ増えたのか。働く貧困層がなぜ増えたのか。なぜ長時間労働はなくならないのか。考えてみれば明らかです。

法律をつくり、資本を規制する。そのために、国や地方の政治を変えていく政治闘争が必要。最低賃金の引き上げ、社会保障の充実や、労働時間の規制、解雇規制法の制定などを求める政治運動を経済闘争とあわせておこなわなければ、私たちの要求は前進しない。

日本において、「資本への社会的規制」を考える場合、やはり「日本国憲法を守らせていく」ことが具体的な姿として浮び上がってくる。さまざまな基本的人権、平和主義など、豊かな理念が書き込まれた憲法を指針に、たたかう必要がある。

3. 思想闘争（学習教育活動）

経済闘争や政治闘争は、思想闘争を根本に位置づけてすすめなければ、前進できない。学習しなければ、本質が見えない。簡単にだまされてしまう。

支配階級（資本）の考え方が、マスコミなどをつうじて、日々浸透していく。

「ある時代の支配的な諸理念は、つねにただ支配階級の諸理念にすぎなかった」
（マルクス・エンゲルス『共産党宣言』）

* 体は労働者でも、頭は経営者

* 「自己責任」「勝ち組・負け組」という考え方はどこから広がったか？

* 労働者が、財界・資本家の代表である自民党に投票している。投票に行かない人もたくさんいる。

* ゆがんだメガネ、くもったメガネを国民にかけようとする - 真実のメガネを

労働者階級の知的成熟が、社会変革の大きなカギ

* 学習することをあらゆる運動の中に位置づけ、広げる

* 1人ひとりが、かしくなることなしに、社会を変える力は育たない

* まずは『学習の友』を読みましょう。月に数冊はカタイ本を読みましょう。

次回（7 / 2）は、「ルールある経済社会を - 資本主義のあり方を問う」です。

【資料】

景気悪化後初のゼネスト = 交通混乱、教員らも参加 - 仏

【パリ 1月29日 時事通信】

フランス全土で29日、政府の経済政策に反発して労働総同盟（CGT）など主要労組が呼び掛けたゼネストが決行され、交通や市民生活が混乱した。米金融危機の余波で昨年秋に欧州の景気が悪化して以来、仏国内で大規模な抗議行動が起きたのは初めて。

仏国鉄は既に28日夜から一部がスト入り。高速列車TGVが通常の6割しか運行されず、在来線や地下鉄のダイヤも乱れている。29日には公立学校の教員や病院、郵便局、電信会社、公共放送、税務署などの職員多数もゼネストに参加。交通ストは30日朝まで続く見通しだ。

フランスが今年、16年ぶりの景気後退に見舞われ、失業率が10%近くに達すると予想される中、労組側は銀行支援策などよりも雇用確保を最優先するよう要求。パリ、リヨン、マルセイユなどで29日午後、数万人がデモを展開した。（2009/01/30-00:26）



フランス全土で29日、政府の経済政策に反発して労働総同盟など主要労組が呼び掛けたゼネストが決行され、交通や市民生活が混乱した。

同日午後、パリ、マルセイユなどで数万人がデモを展開。

写真はリヨンの街頭デモ 【AFP】

【資料】

新安保条約反対闘争（1960年）

日本の労働者・国民の歴史上もっとも大きなたたかいは、この安保条約改定にたいする反対のたたかいだった。地域共闘組織は2000以上つくり、6月には連日のように大きなデモがくりひろげられた。すごい労働者！



- * 5月 1日 メーデーに500万人。安保反対、国会解散、岸首相の退陣を要求
- * 5月12日 第16次全国統一行動に460万人が参加、連日数万人の国会請願デモ
- * 6月 4日 国鉄労働者を中心に560万人が安保改定阻止の政治ストライキ
- * 6月11日 23万5000人が国会と米大使館に抗議デモ
- * 6月15日 安保改定阻止第2波政治ストライキに580万人、国会請願13万人
岸首相、赤城防衛庁長官に自衛隊の出動を要請（未遂におわる）
- * 6月18日 30万人の国会包囲デモ
- * 6月19日 新安保条約が自然成立、アイゼンハワー米大統領訪日を断念
- * 6月22日 安保改定阻止の第3波政治ストライキに600万人
- * 6月23日 新安保条約の批准書交換、発効。岸首相が退陣表明。

6月18日の
国会包囲デモ

